

医療用大麻解禁を妨げる障壁とは 効果と依存性を巡る最前線の議論

昨年12月に大麻取締法等が改正され、大麻草から製造された医薬品が解禁される一方、大麻の使用禁止が盛り込まれる等規制が強化された。法律の施行は今年12月からの予定だが、医薬品としての利用が限定的で、患者が望む法改正になっていないとの声も聞かれる。海外には大麻の解禁に踏み切る国も在るが、どのような議論がされているのだろうか。大麻由来の医薬品を開発する等、世界のカンナビノイド研究をリードしている神経内科医師、イーサン・ルッソ医学博士と、医療用大麻の研究に従事する医師のマラ・ビリーバイキッジ氏に大麻の歴史や医療的效果、法規制の問題点等について講演して頂いた。



写真上:マラ・ビリーバイキッジ医師 RxLeaf Japan. Co., Ltd. Chief Executive Officer
写真下:イーサン・ルッソ医学博士 RxLeaf Japan. Co., Ltd. Executive Chairman of Advisory Board

挨拶



和田 政宗氏「日本の医療の未来を考える会」国会議員団メンバー(参議院議員)

私も「カンナビジオールの活用を考える議員連盟」に参加していますが、産業育成の観点から大麻の利活用を進める為、法改正が必要だという方向で議論が進められています。日本の場合、神事にも大麻が使われていますので、こうした分野での活用も必要です。医療面での大麻の利活用についても学び、今後の法律の立案に生かして行きたいと思います。



尾尻 佳津典「日本の医療の未来を考える会」代表(『集中』発行人)

今日は「医療用大麻」の世界的な研究者であるお2人に遠路遙々お越しを頂きました。日本では大麻の言葉に、**続きを読むには購読が必要です** 向け、医療用大麻はこれからの医療に欠かせません。その証拠に、**今回は、講師として下さる** 教授の研究所は巨額な金額で買収されています。世界は患者の利益の為に医療用大麻の導入は進んでいます。

続きを読むには購読が必要です

詳しくはホームページをご覧ください

